榛名神社社報

発行日　平成十三年七月十五日
発行所　沼田市榛名町二八五一
電話三六㈹二六五五
㈫五一二二
発行人　金子浩隆

榛名神社由緒

鎌倉時代、榛名山御師の活動により榛名神社の信仰が広まり、榛名神社が勧請されました。やがて、榛名宮は建長七年（一二五五）には沼田郷総鎮守となり、正応元年（一二八八）春名権現現再建立され同じく三年、鐘が鋳造され奉納されたという記録があります。

また、一二九八年、上野神社（天神様）の名がみえ、また一書に上野神社（天神様）の名がみえ、また一書に持ったって現在の沼田公園内にお祭りしたとあります。

その後、戦国時代となり、沼田刑鬼斎頭泰は武尊様の社地に新たに城（倉内城）を建てることを決め享禄二年（一五三〇）上野武尊大明神、中を榛名大権現、下を天満天神として現社地に合わせ祀り、社殿を建立。元和元年（一六一五）真田信之公が改築し、明治五年、神仏分離令が発令され、榛名大神社となり、明治五年氏子分離の訴訟により、上之町等六ヶ所は須賀神社の氏子に改め、現在の氏子区域となっています。

昭和三年県社に定められ、昇格、戦後は教法人となりました。

沼田氏・真田氏・本多氏・土岐氏と代々寛政年間に榛名神社の西に瀧棚（大門）に鎮座され、明治四一年合祀されましたが、明治の三年の崇敬を受け、数々のご奉納の記録があり、現在も本殿の御扉の上には真田家の家紋である六紋銭が描かれ、また本多正永公御奉献の本造鳥居も現存しています。

榛名神社ご利益ガイド

榛名神社には本殿に座す四柱の他、十二柱の神様が鎮座されています。長い年月にわたりたくさんの人から篤く信仰されつづけて参りました。今回は、榛名さまの御祭神のご紹介をさせていただきます。ただし、神様（ご利益）、その時代背景や人々によって、形を変えて現在に至っておりますので、この御祭神だからこのご利益だと一概に言うことはできません。たとえば、農耕の神様として鎮座されても戦乱の世では武神軍神としてその性格を変えた例は多々あります。

神様は皆様からの敬いにより神威を増し、益々御守下さいます。私たちも人として神様からの御心にたどり、神様に祈ることによってありがたいお恵みを受け、益々発展することができるのです。なによりも心をこめた祈りが肝心なのです。

御祭神　四柱
はしらのかみのみこと

埴山姫命（やまとたけるのみこと）
神社運営・五穀豊穣、商売繁盛の神様。榛名山様名

倭建命（日本武尊）
神社運営・土地守護、諸願成就の神様。
開運・土地守護、諸願成就の神様。
第十二代景行天皇の御子で熊襲征伐、また東征して蝦夷を征伐するなど、日本全国を旅されて一つにまとまり豊かな国となるように全国を飛び廻った神様。
最期は病に倒れ、白鳥と化して飛び去ったといわれます。あらゆる困難を乗り越えて、人間の象徴とも言える物事にあたる素晴らしい人間の象徴とも言える神様。また、山岳信仰としての武尊山（保高山・保寶山）への信仰も篤かったようです。

菅原道真命（天神様）
学問の神様、厄除けにも、災難除けの神様を祭るお社。
太宰府の天満宮の木は梅花の代の学者さまが植えられたものと言われます。
平安時代の政治家、藤原時平の一族の無念の生涯を終えい、九州の太宰府に左遷させられ、落雷でたくさんの人が死ぬなど、道真の怨霊を恐れて、祭神として各地に神社を建てたそうです。
「祀れ」とおっしゃっておられます。人々を護る、特に学問の神様として信仰を集められました。

建御名方神（おんばしらさま）
商売繁盛、交通安全、健康、長寿の神様。
大国主神の子。天孫降臨に際し、高天原から派遣された建御雷神（鹿島神宮の「御祭神」）と激しい力比べをして、とうとう敗北。服従し国譲りを約束。その後、諏訪に移りました。御柱祭で信州の武田信玄や真田信之の信仰により、故郷で信仰される諏訪神様を深く社奉祭することを決め、各村にお祭りをしました。

拱社未社
大国主社（大国主神）
商売繁盛・土地守護・交通安全・家内安全・縁結びの神様。

熊野社（櫛御気野命）
稲荷社（宇迦之御魂神）
熊野社（高皇産霊神）
産泰社（高皇産霊命）
五柱社（大日孁命）
（品陀和氣命）
（天児屋命）
（倭建命）
（住吉神）
（住吉神）
厳島社（市杵島比賣命）
加茂社（大雷神）

琴平宮（大物主神）

知っておこう

神棚は家族みんなでおまいりしましょう

毎朝、神棚には、お米（二枚）・塩・水をおそなえします。朝は、お酒もいっしょにあげるのがよいでしょう。初物などもそなえます。供えた仕方は「図」のとおりです。お供えの順番は、お米・お酒・塩・水が基本となります。

社頭講話

自然との共生

二一世紀は「自然との共生の時代」といわれています。古来、日本人は山に入るときには、必ず「入山の許しを乞い、注意を祓い、入山の恵みに感謝を捧げる」という畏敬の念を持ちつづけてきました。山は、自然の恵みの源であり、すべての命の源であり、川も海も空も大地も、すべての自然が信仰の対象であり、そこに神様の存在を感じた日本人は、「道」を通じて修行を重ねて自然との共生を果たしてきたのではないだろうか。二〇世紀の繁栄の裏で、自然の破壊は、「侵略と破壊」の時代であったという人もいる。また、「科学技術の時代」であったという人もいる。

新世紀、西暦ではあるものの、この節目に、人としてもう一度「民族のこの時代の中に考えてみたいのではないだろうか。日本人の心の中に古から存在した「自然との共生」を今一度見つめ直してみたい。

「面美様（めめよしさま）」

撫でた手で形りの顔をなでると美人に変わるという。珍しい線彫りの顔をなでると、顔の輪郭がうつり、鈍くなる。「面美様」は、「目の病気に効く」と言われています。

「目の病気に効く」

「面美様」は、「目の病気に効く」と言われています。

「目の病気に効く」

「面美様」は、「目の病気に効く」と言われています。

「目の病気に効く」

「面美様」は、「目の病気に効く」と言われています。